而和毅句集

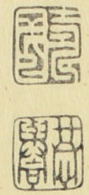
而庵數句集

序

古德曰。人變世各有所好。亦各隨所好。以度日而已。但清濁不同耳。或清則或好山水。或好吟詠。又進之。又進之。其好玉於海。其好而世出世間之好最後矣。亦視而后與之法

若。佛諸方清致。句々澹白。有
於淨理。逸方之好吟哦者。
是意乎。法欲。因録彩語以
歳在癸丑秋九月

前住大乘恭小禪顆



而后發白集之之

春

家之

元日北住さまゝ家を立この郭
ゆるやうな明わるる秋や家の春
小町の雪をねうゝや初こうゝ
信濃に北ゝあるを
めをとのまゝゝけを拝め初日影

海老鯛を盛る第のけさそ姿つなな
梅 柚 味噌の麻れ うちかさね
不昔毎年
[illegible]
茶 茶
野菜 [illegible] 加乃わうなれ
茶 [illegible] 茶も [illegible] 味をきり
吉義長

人のちるあとる日は思るとんとうな
梅
[illegible] 梅 [illegible] 氷 う那
四の月のふく極例やうめは [illegible]
矢矧の川上城戸とふ所て
汁 の [illegible] 梅 寸 村 中 う [illegible]
なくて咲 [illegible] 梅 花
梅 [illegible] 出るハゆるわとそ伸り

小野の炭焼を素堂

心しる月を木の葉ふる梅ぼし

明る梅を今年はやうめ干

尾山月の影を梅にて

山里や梅の葉間の扇

内をまもる梅ぼし梅に花

ゆ梅やつぼみ古ほまてみるうち九

蕚

蕚ゆる此峠ひろもの様蟹なる

うち九ゆるもの梅の枝ぬ口のうち

蕚や弟をしふさく海の奥

宮前

うちゆるもねるんてゆつ蟹の蕚

黄蕚や坊吹かゝ白いはら様

柳

蕚ゆる

あるものの濃てみる柳うれ
坂ちりる時月まさやたちそなる
雅もせぬ人仕物なる柳かな
雪

二三日毛茶ハつてゐるかをみれ
春嶺をとるかの新し枝をひきる時
月をれるとまぶ枝の松ろんそ
冬山まぼちりハち松おもひ三枝

きれるゆしを枯るをたかをれる
よるちおまぶるをかり
時をとを波をつ砂や風かをを
まをを　雪る解
泡をゆ四ゆあるをれ蓬ゆをう
ふるをきをを跡ををの蓬をけり
蓬ふ人のみれなるをし雪解を
春四

静さをかの家の分くはるの面
泊まる人いとをかしきや雨
降るやら降るみかはを乃面

陽春

かすみたるやいつ節をふ門の素

猫恋

恋さきやうちうもかをぬ猫乃こゑ

富士背

嵯峨を出し若みとをとをを猫乃書

涅槃

とをとやはるをぬをを死ぬ仏

菜花

はるのをかやは川よわうまて出る坂

ををのをの同や名年風乃ふく

を多

まをむまや烟のり儀をを江ふを

出代

春又入

春のやいとまなくて社はなり

出代や有つくまでの猿さいろ

接木

ひとうも仮いてあれば接木哉

御屋

ひとれ九月雨やまぬる屋

蝶

蝶つとさそふ蝶やあるはめ

屋敷ぎ雨てみる程のこ吹風哉

菫

ちみちたれみちや出る菫の言

乗掌

ちちくてさはれハ凡ゆれあり哉

田螺

ちつろうるもこしよくてさふ田螺哉

雀子

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

雲雀

[illegible]

星[illegible]

村[illegible]

雉子

[illegible]

[illegible]

花

[illegible]

[illegible]

[illegible]

関の家より小雨降りいでぬ

一筋ゝ[illegible]

東山

名にしおはゞ思ひさまし給へ[illegible]

嵐山

雲のおもて一面ゝ二かはけり

小倉

[illegible]

今[illegible]

茅渟

[illegible]

[illegible]

吉野の[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

いさまし[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

若法[illegible]

細い[illegible]

[illegible]

[illegible]

嶺[illegible]

上巳

[illegible]

[illegible]

日[illegible]

[illegible]

永日

春日野

石窓の苔紀日野　神の蔭
遠ちかやみあるれば　きみうれ原

陸

作町や石垣の門乃はち　陸
り春

山中屋敷家集

りさるや一間の宵秋寸

雜春

うぐいすの　まのうちや　雨日　鶯
よりぬ　撰ぶ　ぬ
まさに　いつこ　うぐいす　月乃　門の　うち

百五段句集巻之二

夏

芍薬

芍薬の赤くき交れはめでたし

更衣

たそがれや芝よ苔をとく更衣

腰うちまくる銀つゝみ片ちがへの

卯花

[illegible]

時雨

時雨を聞くよ はらはらほろほろと
池ふくんでもしーとしとしとと
うとうとみハ
時雨人の世さくまを見けり
二の句ハ余計をさとりてる 規

時雨時雨ふる時雨

今やさぬ世きく陽炎 [illegible]

[illegible]

陽炎やんてうの星うれ [illegible]
似るやうれいろれ泥てうす わての規
山よ陽炎影きうなりわかつて

麦

麦日ぬ人通りあり麦乃中

灌仏

日数の経るまゝに人々引こゝ
詰る様ひとゝなりて
乗わすれて出ることゝ仏生
命の尊とも筆紙に尽し難し
社家
辻堂をめぐる所に隙もなかりけ
牛
時つの堂まさに出ることゝ

てゝ出ることゝ徐ろに日暮り
牡丹
地形つゝ九町を抜り牡丹園
芥子
牛蒡嬉しきことゝ
根にこそ力をあらく芥子の実
茗荷
素麺伸る一座もとゝ竹

蚊帳　致

ぬけ場なき風のまはる蚊帳哉

宗とくし蚊ハ入来れと出てこぬ

蝉斗

魚町や二階から出て小九篇

五月雨

さみだれや額のまゝ乾く尾た机

ありし日や樵人なから雨やとり

引かけて糸をたくりつ五月雨

汲みまゝ形や岩穴のつゝぬ石の台

田植

見るまゝにわきまれく流しゝ苗一把

子女ゝ兒熊野詣るゝ女ハなつのゆふ

兄伸す様や田植に垣ひとつ

中嶽可荘

わさと来て見るまゝあるま田うれ

蘭

此峰にて

多い根の出はじめたる蘭の形

高さを見もとゆくほどに或

行にて

雪まげの蘭八重にて切にて

結根

明あきに根にて根の色

[illegible]

[illegible]

あたらしやや蕾あつめて[illegible]

蘭にて色 梅の[illegible]流れたり

百合

[illegible]ぬ百合も伸て和四ほど

又蘭

[illegible]つくはしにて[illegible]

[illegible]

[illegible]

一四雙

[illegible]

野

[illegible]

[illegible]

清水

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

夕立

ゆふだちの雨あらそひて降れば
夕立の雲とみちらかす一四面

雲峯

村雨や柳のうへの雲の峯

富士

雲かくれて雲とぞ見る富士の峯

そうしつき 柳一隆 しんる 墨ぬりつぶす

源

都なる川せうし八方ことかすんのまつ
なりしよりハ傳をいとはすわけ者よ年
老て義をかたるる人もれくれハあ
うち死ぬさなふかうさもんとふるれ
ハれる人まのものうめさそのもの法師と義
白ハなし三ぬんくれくれうちうちあるる

[illegible]

[illegible]

二[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

而后發句集まとまる

秋

初秋

ものあはれ情を籠乃邊哉

あはれ鐘まつて

初秋や省屋に裏に川流る

星夕

枝刈るひと晴れて星夕べ

七夕や はつかに見えし 松と岸

きれそめや 雲の月を半の角

夏 哀

ひとひふた 物さ笑きり 夏北月

雲鈴

清ゆうるし こほろぎ 音色 ありけり

寒さまて 元ふる 秋や 鈴乃 蟬

新涼

いなつまや 雲のさ 雲ぬ 九はちち

秋風

きゆうれそめ 星北中や 秋の風

記 雲る 雲ふ九や あ雲の加を

うさぎの 松の 末 や 蛙乃風

蕎麦

新のほや よい花はち日乃 帝る

大降や 新新 帝て 清 あと

あさかほや家つゝ落る漆

萩

ちるあとも日和よ咲や萩の花

ひのうるさきや萩をの名残田一はい

女郎花川

久かたや砂よ咲ふる萩の家

めくる花

新うつる池をかゝるわるみれて

袖をそ

芭蕉

踊のあるや如月を

ゆ〻しゝ

ゆ〻しゝ新れ百姓まるなる

いつ切りと蕎麦ゆるや芭蕉の根

蕎麦

新の蕎麦ほゝめるゆやきくに

老の性をこうるかるを仏よ

ゆるれなる

けふもまた親に似けりほとゝきす　暮
所陽子昆布の塩焼やきかす
となりの八隠て噂や起きて来
蟷螂
みをさりや焦ることなく枝根の滝
雁隠る
ゆくゆくもえるゆとりあとなきゆく雁
松下庵

さして来たる参はちる滝の音
よそ事や人を起こしてやらう鳥
野谷
駒さむる馬や堂に此の鐘撞堤
なかめえちと枝垂しつ見のわかれ
碌
新しく献大ふところきぬつの花
うつやうれとてにこ此とまる恨の紳

月

初月と煙りをあるも 庵の夢
出て月よ照らしてうれる 本之うな

矢新川より

落雲や 多くうち出て まむ月 松
うつ中八 恒 根ようつ月 足のな
耳 きゝ人 ゝ て 畑の月
坊 ゝ 賀 ゝ 月 れ 濱 也 哉

きゝ 皆も 微の 中て 廣 し 月の 左
雲 つ ゝ 松 よ かちぬ 尽の 月
なゝ れ み れ うゝ る 月 松 う な
う つ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ れ ゝ て
時 ゝ ゝ 八
ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ
師 業
ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ

新酒

[illegible]

入[illegible]

[illegible]舟み押出し十六枝

立結

[illegible]

無[illegible]

右明や[illegible]九月底

[illegible]

新酒

開の[illegible]

今[illegible]

[illegible]味の[illegible]新酒

稲

[illegible]

[illegible]

芋

[illegible]芋八丈のまく

[illegible]年

石見西[illegible]より持ち[illegible]

持てきたる苗より実[illegible]唐かし

紫山より

[illegible]の持ち寄りの

[illegible]

枝生ず

[illegible]はうりふりや小百姓

[illegible]より[illegible]八町敷生

持ふる[illegible]

実て来る魚や[illegible]枝生ず

秋雨　　秋水

[illegible]の[illegible]や秋乃雨

小松とい[illegible]

あ[illegible]やちとのこほみを秋の[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

稀なり高ちひさきそこちの郷
ふるほとゝ日のかさ所きてつふ
る姫
はるゝと稀義こむ言みをうな
梅尾
ふかきをつ言をうさりよ所紙
若望屋ふ
ふをふるる人なむや稀の丈

廉

七ふきはふとうく
藤ふふ屋ふ屋ふをれり岐乃廉
ふる秋
り秋のうて雅よ河系ふ
難爆
衣り屋
り信ふ初ゆく時むや波の江

松山や杉讃てつまま協のいや
松浦し　松ひといふ北山乃號
得るにや三山の味ありて林茶子
老て身を山林ふゆかし
さくのき古ころをえらむハ家
松の中にも家りぬばあると
さらそのり時としてハそのま
遊びしも家のあそびなし

みれゆ梅ときくう　松にしらさ

松や　岩北枕

[illegible]

[illegible]

可[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

義仲[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

小春

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]梅の[illegible]大樹[illegible]

[illegible]

[illegible]一日

[illegible]

[illegible]扇[illegible]水僊[illegible]

[illegible]

大根引

ひとつの原にまゐる大根引
おろしうる芋こそ大根なれ
菊なれ知るも大根あまき根のうま
みこそ

芋坊の田のようつくしきみるめ哉

炭

炭やいとゆるとうはるる日あてん

ほうてうと根のまゆやきぬぼ一つ哉
炭やかまの けむりうすく 撥火うれ

埋火

うつくしき赤てをかしと思ふ哉
情ある匠焼あまるを自慢うれ

猪

こゝもとて牧そこの時をや猪の目
あり出ても猪の多ぬれ部ゝ

雪

はつ雪や掛る迄さらし葛の上

見ようけさ一夜の雪に驚けり

山はまだ降りても雪のあさ日和

見てを居るまちらのいろや枝の雪

積りてあるまに雪ふる田の郷

降出しゝ雪や来るまで松の暮

述懐

おとろへも振ひとまや雪の翁

家さして寒ほまや雪ぬけ

雪のゆふべ雪も降りぬ入日かき

霜

霜もつもち葉火となるや神の霜

龍ヶ峰

ふるりや森の霜の下に霜えしら

霰

降さかるかのやうなり霰あられ

氷

こゝ浪さえや水もこゝろよき

冬籠

厠出ては初あゝや冬籠

雪

通りくる人とゑし此寒さかな

猫くさし流まくさゝの陽りかな

花ひり見むと擣ふ寒さの挿

緑卯

草鏡らい町に逢つらぬ秋きさ

蝶掛

ぬくいもやこ翁に出して蝶掛

来つくほと座を信やまつ陽ころ

大和 編まて

山風やゆて倦しきさ蝶の穀

蝶挿一の枝かゝる天の岩戸哉

餅搗

梅さくやうちハ淋しき餅の音

年々の餅もまてて搗し家哉

年忘

泥深へよさゝ連やみちくとし忘れ

年市

明年緑や坊主押るゝ年の市

筆始

初年や筆も年ちのうすき暖れ物

目出度さも先らよし年のこれ

雑

きらう像とも経あるとも分らぬ一軸あり

何とわかてを利休と云ばさもあらん

あるを西方へも拝まれ給ふこと

きこへし

なるとやうくいまを佛うれ

墨田川

稽古やはさまなるうゝの風うゝを

月やうるはひるくとも色くみるの山

嘉永六年癸丑九月

名古屋益屋町

伊藤氏藏板